

玉葱の白色疫病について

山口県防除所より玉葱の白色疫病の発生が、平年に比べて多くなるとの予想が伝えられました。下記のことにご注意して下さい。

記

- 1．水媒伝染する為、圃場の排水を良好にする。
- 2．早生種は3月、中晩生種は3月～4月が防除適期です。べト病と合わせて予防散布する。
ジマンダイセン水和剤、プロポーズ顆粒水和剤
- 3．発生が多い場合は、防除効果の高い薬剤を使用する。
リドミルMZ水和剤、ホライズンドライフロアブル
- 4．多発生圃場では玉葱の連作を避ける。
- 5．薬剤耐性菌の出現を防ぐ為、同一薬剤の連用及び同一系統の薬剤の輪用は避ける。
- 6．農薬使用基準の遵守。

白色疫病

葉身中央部や、やや先端寄りに暗緑色油浸状病斑を生じ、病斑部を内側にして葉身が曲がる。乾燥にあうと病斑は白色になる
発病初期の症状：葉先が白変し、下垂する。寒冷による生理的な葉先枯れとよく似ているが、本病のほうが枯込みの度合が速く、枯死部が蛇腹状になることがある。



ベト病

淡黄緑色、長楕円形の病斑ができ、表面に灰白色～暗緑色のカビをそう生する（進行型病斑）
灰白色のくぼんだ微斑紋を同心円状に生ずる（停止型病斑）
越年罹病株上には、全身に白色のつゆ状または暗紫色のカビが観察されることが多い。カビは2～3月に降雨があり多湿で、気温が10℃以上の条件で形成する。胞子を1～2回形成すると枯死する株が多い。

